

第 1 問

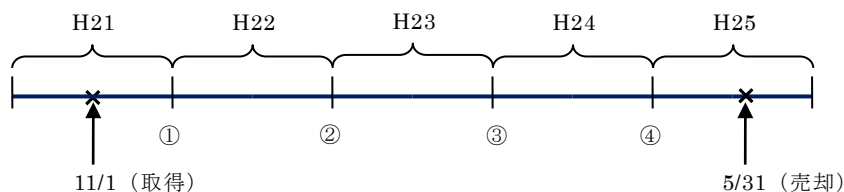
【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	備品減価償却累計額	95,000	備 品	240,000
	減 価 償 却 費	12,500		
	未 収 金	80,000		
	固定資産売却損	52,500		
2	前 受 金	30,000	売 上	330,000
	受 取 手 形	200,000	現 金	15,000
	売 掛 金	115,000		
3	当 座 借 越	150,000	現 金	180,000
	当 座 預 金	30,000		
4	通 信 費	35,000	普 通 預 金	35,000
5	売 上	120,000	現 金	120,000
	現 金	120,000	売 掛 金	120,000

〈別解〉 1 (借) 減価償却費 12,500 (貸) 備品減価償却累計額 12,500
 備品減価償却累計額 107,500 備 品 240,000
 未 収 金 80,000
 固定資産売却損 52,500
 5 (借) 売 上 120,000 (貸) 売 掛 金 120,000

【解説】

1. 「備品の売却」に関する仕訳を問う問題である。問題を時系列で表すと次のようになる。



新版日商簿記 3 級 テキスト P.156、158 参照

- ・ 売却時点での備品に関する勘定と金額

備品	備品減価償却累計額
240,000	95,000 ※
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: right; margin-right: 5px;">↙</div> <div style="text-align: center;">取得原価</div> </div>	

※減価償却累計額は①・②・③・④のそれぞれの決算日に行われた減価償却費の総額 (¥5,000+¥90,000=¥95,000) である。

① $\frac{¥240,000 - ¥0}{8年} \times \frac{2か月 (11月 \sim 12月)}{12か月} = ¥5,000$

↑
1年分

②、③、④の合計額

$\frac{¥240,000 - ¥0}{8年} \times 3回 = ¥90,000$

- ・ 売却したので、両勘定の残高をゼロにするための仕訳を行う。

(借) 備品減価償却累計額 95,000 (貸) 備品 240,000

- ・ 期首から売却した日までの減価償却費を計上する。

(借) 減価償却費 12,500

減価償却費 (H25.1.1~H25.5.31 までの 5 か月分)

$$\frac{¥240,000 - ¥0}{8年} \times \frac{5か月 (1月 \sim 5月)}{12か月} = ¥12,500$$

- ・ 対価の仕訳を行う。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.109 参照

(借) 未収金 80,000

- ・ 貸借差額を求める。

借方が¥52,500 少ないので、借方に「固定資産売却損」を計上する。

(借) 固定資産売却損 52,500

【別解】

次のように仕訳しても良い。

- ・ 5/31 に減価償却費を計上する。

(借) 減価償却費 12,500 (貸) 備品減価償却累計額 12,500

この仕訳を勘定に転記する。

備品	備品減価償却累計額
240,000	95,000
	12,500

- 勘定をゼロにするための仕訳を行う。

(借) 備品減価償却累計額 107,500 (貸) 備品 240,000

- 対価の仕訳を行う。

(借) 未収金 80,000

- 貸借差額を求める。

(借) 固定資産売却損 52,500

2. 内金、手形の裏書譲受けおよび掛けによる商品売り上げの仕訳を問う問題である。なお、発送費は先方負担である。

- 商品 ¥330,000 を売り渡し。

(貸) 売上 330,000

- 注文時に受け取った内金（前受金）と相殺するので、前受金（負債）の減少となる。

(借) 前受金 30,000 新版日商簿記 3 級 テキスト P.110 参照

- 約束手形の裏書譲渡が行われる。

裏書であっても手形を受け取ると手形債権が発生するので、受取手形勘定の借方に記入する。

(借) 受取手形 200,000 新版日商簿記 3 級 テキスト P.96 参照

- 残額は掛けとする。

(借) 売掛金 100,000

- 発送費を現金で支払う。

他店負担の発送費は売掛金勘定に加算するか、立替金勘定で処理する。この問題では指定された勘定に立替金勘定はないので、売掛金勘定で処理する。

(借) 売掛金 15,000 (貸) 現金 15,000

新版日商簿記 3 級 テキスト P.76～77 参照

3. 他店より受け取った小切手を当座預金に預け入れた取引の仕訳を問う問題である。なお、預け入れ時点では当座預金残高がマイナスである。

- ・ 他店振出しの小切手の処理を行う。

他人振出しの小切手は現金として扱うので、受け取ったとき現金勘定の借方に記入してある。それを当座預金に預け入れたのであるから貸方は現金となる。

(貸) 現金 180,000

- ・ 当座借越のある状態で当座預金を預入れたときは、当座借越額を返済し (①)、そのうえで残額を当座預金とする (②)

(借) 当座借越 150,000 ← ①

(借) 当座預金 30,000 ← ②

新版日商簿記 3 級 テキスト P.66～67 参照

4. 通信費が普通預金口座より引き落とされた取引の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.70 参照

- ・ 営業活動で利用している電話料金は通信費勘定 (費用) で処理する。

(借) 通信費 35,000

- ・ 普通預金口座からのお金の引き落とし。

普通預金も当座預金と同じ資産の勘定である。口座から引き落とされたことにより、普通預金が減少する。

(貸) 普通預金 35,000

5. 訂正仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.124 参照

テキストの「訂正仕訳のコツ 1」にそって解答すると次のようになる。

- ・ 誤って行った仕訳。

(借) 現金 120,000 (貸) 売上 120,000

- ・ 上記仕訳を取り消すための反対仕訳。

(借) 売上 120,000 (貸) 現金 120,000 ← ①

- ・ 正しい仕訳。

(借) 現金 120,000 (貸) 売上 120,000 ← ②

この①と②の仕訳が答である。なお、現金勘定を相殺し次のように答えても良い。

(借) 売上 120,000 (貸) 売掛金 120,000

第 2 問

【解答】

1.

商品有高帳
商品A

(移動平均法)

平成 25年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
5	1	前月繰越	100	200	20,000				100	200	20,000
	7	仕 入	100	210	21,000				200	205	41,000
	10	売 上				80	205	16,400	120	205	24,600
	14	仕 入	80	215	17,200				200	209	41,800
	20	売 上				100	209	20,900	100	209	20,900
	27	仕 入	50	212	10,600				150	210	31,500
	30	売 上				70	210	14,700	80	210	16,800

2. (1) 売上総利益 ¥44,450 (2) 次月繰越 ¥17,050

【解説】

商品有高帳に関する問題である。

1. 移動平均法による商品有高帳の記入 新版日商簿記 3 級 テキスト P.83 参照

Point 商品有高帳の作成

- ① 商品の種類ごとに記帳する。
- ② 単価・金額は原価で記入する。

商品有高帳
商品A

(移動平均法)

平成 25年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
5	1	前月繰越	100	200	20,000				100	200	20,000
	7	仕 入	100	210	21,000				200	205 ^①	41,000
	10	売 上				80	205 ^②	16,400	120	205	24,600
	14	仕 入	80	215	17,200				200	209	41,800
	20	売 上				100	209	20,900	100	209	20,900
	27	仕 入	50	212	10,600				150	210	31,500
	30	売 上				70	210	14,700	80	210	16,800

移動平均法は異なる単価の商品を仕入れるつど、平均単価を計算し、払出単価とする方法である。

- 5/1 現在の単価は¥200、5/7 の仕入単価は¥210 で単価が異なるので平均単価を求める。

平均単価の計算

$$\frac{\begin{array}{r} 5/1 \text{ の残高欄の金額} \\ \text{¥20,000} \end{array} + \begin{array}{r} 5/7 \text{ の受入欄の金額} \\ \text{¥21,000} \end{array}}{\begin{array}{r} 100\text{個} \\ 5/1 \text{ の残高欄の数量} \end{array} + \begin{array}{r} 100\text{個} \\ 5/1 \text{ の受入欄の数量} \end{array}} = @\text{¥205} \quad \text{①}$$

- 求めた@¥205 が 10 日の売上の払出単価となる (②)

2. 先入先出法

先入先出法で商品有高帳に記帳してみると次のようになる。

商品有高帳
商品A

(移動平均法)

平成 25年	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
5	1	前月繰越	100	200	20,000				100	200	20,000
	7	仕 入	100	210	21,000				100	200	20,000
									100	210	21,000
	10	売 上				80	200	16,000	20	200	4,000
									100	210	21,000
	14	仕 入	80	215	17,200				20	200	4,000
									100	210	21,000
									80	215	17,200
	20	売 上				20	200	4,000			
						80	210	16,800	20	210	4,200
									80	215	17,200
	27	仕 入	50	212	10,600				20	210	4,200
									80	215	17,200
									50	212	10,600
	30	売 上				20	210	4,200			
						50	215	10,750	30	215	6,450
									50	212	10,600

- 売上総利益の計算

新版日商簿記 3 級 テキスト P.80 参照

売上総利益 = 売上高 - 売上原価

売上高： $(80 \text{ 個} \times @\text{¥380}) + (100 \text{ 個} \times @\text{¥385}) + (70 \text{ 個} \times @\text{¥390}) = \text{¥96,200}$

売上原価 (商品有高帳の払出欄の金額) :

$\text{¥16,000} + (\text{¥4,000} + \text{¥16,800}) + (\text{¥4,200} + \text{¥10,750}) = \text{¥51,750}$

売上総利益： $\text{¥96,200} - \text{¥51,750} = \text{¥44,450}$

なお、次のように商品勘定を作成して計算してもよい。

		商 品			
前月繰越 (期首商品棚卸高)	5/1	100個	@¥20	80個×@¥200=@¥16,000	} 5/10
				20個×@¥200=@¥4,000	
当期商品仕入高	5/7	100個	@¥210	80個×@¥210=@¥16,800	} 5/30
				20個×@¥210=@¥4,200	
	5/14	80個	@¥215	50個×@¥215=@¥10,750	}
				5/27	

} 売上原価

第 3 問

【解答】

合計残高試算表
平成 25 年 5 月 31 日

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
465,000	1,215,000	現 金	750,000	
496,500	2,260,000	当 座 預 金	1,763,500	
140,000	480,000	受 取 手 形	340,000	
214,000	1,055,000	売 掛 金	841,000	
250,000	250,000	繰 越 商 品		
300,000	300,000	備 品		
	300,000	支 払 手 形	430,000	130,000
	844,500	買 掛 金	905,000	60,500
	5,000	預 り 金	6,000	1,000
	300,000	借 入 金	900,000	600,000
		資 本 金	1,100,000	1,100,000
	61,000	売 上	2,395,000	2,334,000
1,760,500	1,785,000	仕 入	24,500	
370,000	370,000	給 料		
187,500	187,500	支 払 家 賃		
30,000	30,000	水 道 光 熱 費		
12,000	12,000	(支 払 利 息)		
4,225,500	9,455,000		9,455,000	4,225,500

売掛金明細表

	5月25日	5月31日
神奈川商店	¥ 150,000	(¥ 134,000)
埼玉商店	100,000	(80,000)
	<u>¥ 250,000</u>	<u>(¥ 214,000)</u>

買掛金明細表

	5月25日	5月31日
千葉商店	¥ 90,000	(¥ 31,000)
茨城商店	60,000	(29,500)
	<u>¥ 150,000</u>	<u>(¥ 60,500)</u>

【解説】

5 月 25 日現在の合計試算表に 5 月 26 日から 31 日までの諸取引を加算し、5 月末の合計残高試算表と売掛金および買掛金の明細表を作成する問題である。

1. 5 月 26 日から 31 日までの諸取引の仕訳を行う。

買掛金明細表（仕入先ごとの買掛金の残高を記録する表）の作成が求められている問題では、仕訳をしたときに買掛金勘定の下に商店名をメモ的に書いておくとよい。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.87,89 参照

26 日	(借) 仕入	105,000	(貸) 買掛金	105,000
			千葉 55,000	
			茨城 50,000	
	(借) 仕入	20,000	(貸) 支払手形	20,000

※ 当店振出しの約束手形とは、他人から受け取った手形を裏書譲渡したのではないということである。

27 日	(借) 買掛金	4,000	(貸) 仕入	4,000 ← ①
	千葉			
	(借) 買掛金	500	(貸) 仕入	500 ← ②
	茨城			

※ 返品 (①) や値引き (②) は仕入れた時の逆仕訳をする。

(借) 売掛金	60,000	(貸) 売上	60,000
神奈川			

新版日商簿記 3 級 テキスト P.75 参照

28 日	(借) 売掛金	45,000	(貸) 売上	45,000
	埼玉			
	(借) 受取手形	30,000	(貸) 売上	30,000
	(借) 買掛金	90,000	(貸) 当座預金	90,000
	千葉 50,000			
	茨城 40,000			

29 日	(借) 売上	1,000	(貸) 売掛金	1,000
			神奈川	
30 日	(借) 現金	140,000	(貸) 売掛金	140,000
			神奈川 75,000	
			埼玉 65,000	

(借) 水道光熱費	5,000	(貸) 当座預金	5,000
-----------	-------	----------	-------

31 日	(借) 給料	70,000	(貸) 預り金	1,000
			当座預金	69,000

(借) 支払家賃	37,500	(貸) 当座預金	37,500
----------	--------	----------	--------

(借) 当座預金	75,000	(貸) 現金	75,000
----------	--------	--------	--------

(借) 買掛金	60,000	(貸) 支払手形	60,000
千葉			

※ 為替手形を引き受けたとき、振出人に対する買掛金が減少するので、買掛金勘定の借方に記入する。

(借) 買掛金	40,000	(貸) 受取手形	40,000
茨城			

※ 手形の裏書では、手形債権 (受取手形) が減少するので貸方が受取手形になる。

(借) 支払手形	50,000	(貸) 当座預金	50,000
----------	--------	----------	--------

(借) 借入金	300,000	(貸) 当座預金	312,000
---------	---------	----------	---------

支払利息	12,000		
------	--------	--	--

新版日商簿記 3 級 テキスト P.106、111 参照

Point 掛代金

掛代金は文脈によって次のように扱いが異なる。文章をよく読んで判断しよう。

○掛代金を支払う場合 : 買掛金

○掛代金を回収する場合 : 売掛金

Point 為替手形の仕訳パターン

○振り出した場合 : 売掛金が減少する

(借) ○ ○ ○ ○ ×××× (貸) 売 掛 金 ××××

○受け取った場合 :

(借) 受 取 手 形 ×××× (貸) ○ ○ ○ ○ ××××

○引き受けた場合 : 買掛金が減少する

(借) 買 掛 金 ×××× (貸) 支 払 手 形 ××××

2. 合計残高試算表の作成

現金勘定から順に、それぞれの勘定の借方・貸方合計額および残高を記入する。

【例】現金勘定

合計残高試算表
平成 25 年 5 月 31 日

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
③ 465,000	① 1,215,000	現 金	② 750,000	

- ① 5月25日の合計試算表の借方合計(¥1,075,000)に上記仕訳から(借方)現金の金額を加算し、現金勘定の借方の合計欄に記入する。
 - ② 5月25日の合計試算表の貸方合計(¥675,000)に上記仕訳から(貸方)現金の金額を加算し、現金勘定の貸方の合計欄に記入する。
 - ③ 借方合計(1,215,000)から貸方合計(750,000)を差し引き、残額を借方(両金額の大きい側)の残高欄に記入する。
- ①～③の工程を経て、合計残高試算表の借方合計と貸方合計が一致することを確認する。

※ 類似問題を多く解いて問題に慣れ、時間の短縮と計算ミスをしないようにしよう。

3. 売掛金明細表および買掛金明細表の作成

神奈川商店、埼玉商店、千葉商店、茨城商店についてそれぞれの勘定（T字形）を作成し、上記仕訳を転記して各残高を計算する。

〈売掛金明細表〉

神奈川商店			
5 / 25	150,000	5 / 29	1,000
27	60,000	30	75,000
		} 134,000 借方残高	

埼玉商店			
5 / 25	100,000	5 / 30	65,000
28	45,000		
		} 80,000 借方残高	

〈買掛金明細表〉

千葉商店			
5 / 27	4,000		
28	50,000	5 / 25	90,000
31	60,000	26	55,000
31,000 貸方残高		}	

茨城商店			
5 / 27	500		
28	40,000	5 / 25	60,000
31	40,000	26	50,000
29,500 貸方残高		}	

第 4 問

【解答】

①	②	③	④	⑤
出 金	27,000	売掛金	振 替	売掛金

【解説】

① 取引の仕訳を行う。

なお、5 伝票は、仕入取引は全額掛け取引として仕入伝票（売上取引は全額掛け取引として売上伝票）で処理することに注意する。

	(借) 仕 入	27,000	(貸) 現 金	10,000
			買 掛 金	17,000
仕入伝票				②は¥27,000である
	(借) 仕 入	27,000	(貸) 買 掛 金	27,000
出金伝票				①は出金伝票である
	(借) 買 掛 金	10,000	(貸) 現 金	10,000

新版日商簿記 3 級 テキスト P.131、132 参照

② 取引の仕訳を行う。

	(借) 受取手形	33,000	(貸) 売 上	40,000
	現 金	7,000		
売上伝票				③は売掛金である
	(借) 売 掛 金	40,000	(貸) 売 上	40,000
振替伝票				④は振替伝票、⑤は売掛金である
	(借) 受取手形	33,000	(貸) 売 掛 金	33,000
入金伝票				
	(借) 現 金	7,000	(貸) 売 掛 金	7,000

第 5 問

【解答】

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	55,700						55,700	
当座預金	196,300						196,300	
受取手形	355,600						355,600	
売掛金	571,400			7,000			564,400	
売買目的有価証券	158,000			12,000			146,000	
繰越商品	293,000		270,000	293,000			270,000	
建物	2,500,000						2,500,000	
備品	900,000						900,000	
支払手形		368,100						368,100
買掛金		225,900						225,900
借入金		1,200,000						1,200,000
貸倒引当金		14,500	7,000	20,100				27,600
建物減価償却累計額		750,000		75,000				825,000
備品減価償却累計額		300,000		150,000				450,000
資本金		1,902,500						1,902,500
売上		4,415,000				4,415,000		
受取手数料		36,000		12,000		48,000		
受取配当金		12,000				12,000		
仕入	2,823,000			2,823,000				
給料	1,139,000				1,139,000			
消耗品費	67,000			5,000	62,000			
支払保険料	129,000			86,000	43,000			
支払利息	36,000		18,000		54,000			
	9,224,000	9,224,000						
売上原価			293,000	270,000	2,846,000			
			2,823,000					
貸倒引当金(繰入)			20,100		20,100			
有価証券評価(損)			12,000		12,000			
減価償却費			225,000		225,000			
(消耗品)			5,000			5,000		
(未収)手数料			12,000			12,000		
(前払)保険料			86,000			86,000		
(未払)利息				18,000			18,000	
当期(純利益)					73,900			73,900
			3,771,100	3,771,100	4,475,000	4,475,000	5,091,000	5,091,000

※売上原価については、指定された行であればどこに記入しても良い。

資料 I (借) 貸倒引当金 7,000 (貸) 売掛金 7,000

※前期の売掛金が当期に貸し倒れになる場合と、当期の売掛金が当期に貸し倒れになる場合では会計処理が異なることに注意する。

資料 II

(1) 売上原価の計算

問題文に売上原価をどのように計算するかが描かれているため、まずは問題文をよく読み、処理の方法をどうするのか確認する(今回は売上原価勘定で計算をする)。

① (借) 売上原価 293,000 (貸) 繰越商品 293,000

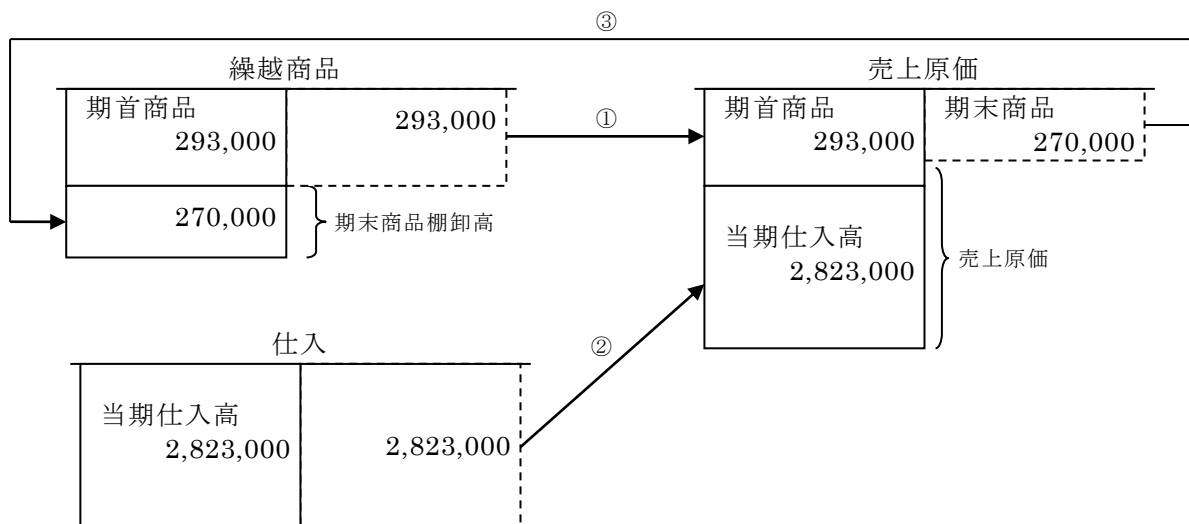
※期首商品棚卸高(試算表の繰越商品の金額)を繰越商品勘定から売上原価勘定に振り替える。

② (借) 売上原価 2,823,000 (貸) 仕入 2,823,000

※当期商品仕入高(試算表の仕入勘定の金額)を仕入勘定から売上原価勘定に振り替える。

③ (借) 繰越商品 270,000 (貸) 売上原価 270,000

※期末商品棚卸高を売上原価勘定から仕入勘定へ振り替える。



新版日商簿記 3 級 テキスト P.147、151 参照

(2)貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 20,100 (貸) 貸倒引当金 20,100

貸倒引当金繰入額の計算

受取手形期末残高 : ¥355,600 (試算表)

売掛金期末残高 : ¥564,400 (試算表 ¥571,400 - ¥7,000)

貸倒引当金繰入額 : $\frac{(\text{¥}355,600 + \text{¥}564,400)}{\text{受取手形 売掛金}} \times 3\% - \frac{(\text{¥}14,500 - \text{¥}7,000)}{\text{貸倒引当金残高 資料 I}} \text{ (試算表)}$
 = ¥20,100

新版日商簿記 3 級 テキスト P.148、149 参照

(3)売買目的有価証券の評価替え

(借) 有価証券評価損 -費用- 12,000 (貸) 売買目的有価証券 12,000

有価証券評価損の計算

時価 帳簿価額 (試算表) 評価損
 ¥146,000 - ¥158,000 = -¥12,000

新版日商簿記 3 級 テキスト P.159 参照

(4)減価償却費の計上（定額法）

(借) 減価償却費 225,000 (貸) 建物減価償却累計額 75,000
 備品減価償却累計額 150,000

減価償却費の計算（定額法）

$$\text{建物：} \frac{\text{取得原価} \quad \text{残存価額}}{\text{耐用年数}} = \frac{\text{¥2,500,000} - (\text{¥2,500,000} \times 10\%)}{30\text{年}} = \text{¥75,000}$$

または次のように求めても良い

$$\text{¥2,500,000} \times \frac{0.9}{30\text{年}} = \text{¥75,000}$$

$$\text{備品：} \frac{\text{取得原価}}{\text{耐用年数}} = \frac{\text{¥900,000}}{6\text{年}} = \text{¥150,000}$$

残存価額が 0 のときは、単純に取得原価を耐用年数で割るだけでよい。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.152、154 参照

(5)消耗品費勘定の整理

(借) 消耗品 5,000 (貸) 消耗品費 5,000
 -資産- -費用-

Point 消耗品の処理の方法				
	購入したとき消耗品費勘定で処理する方法		購入したとき消耗品勘定で処理する方法	
購入時	(借) 消耗品費 ××	(貸) 現金預金 ××	(借) 消耗品 ××	(貸) 現金預金 ××
決算日	(借) 消耗品 ××	(貸) 消耗品費 ××	(借) 消耗品費 ××	(貸) 消耗品 ××
	未使用高を記載		使用高を記載	

この問題では、試算表に消耗品費勘定（費用）があることから、購入したとき消耗品費勘定（費用）で処理していることがわかる。そこで、当期末使用高を消耗品費勘定から消耗品勘定（資産）に振り替える。

新版日商簿記 3 級 テキスト P.162 参照

(6)未収手数料の計上

決算日現在、受取手数料（収益）が発生しているが、現金の受取が行われていないため、まだ帳簿には記入されていない。そこで、正しい損益計算を行うために、未収額を当期の収益として受取手数料勘定に計上するとともに、新しく未収手数料という資産の勘定を設けてその借方に記入する。

未収利息勘定が資産であることをしっかりと理解する。

(借) 未収手数料 12,000 (貸) 受取手数料 12,000
-資産-

新版日商簿記 3 級 テキスト P.167 参照

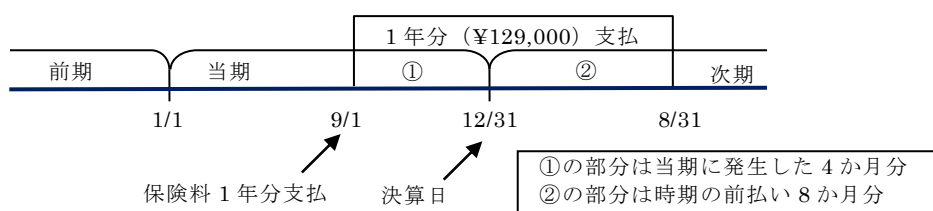
(7)前払保険料の計上

支払額 (¥129,000) のうち、次年度の 1 月 1 日から 8 月末までの 8 か月分が前払い (次年度分) である。そこで、前払分を支払保険料勘定 (費用) から差し引くとともに、次期に繰り越すために前払保険料勘定 (資産) に計上する。

前払保険料勘定が資産であることをしっかりと理解する。

(借) 前払保険料 86,000 (貸) 支払保険料 86,000
-資産-
 前払保険料の計算

$$¥129,000 \times \frac{8\text{か月 (前払い分)}}{12\text{か月}} = ¥86,000$$



新版日商簿記 3 級 テキスト P.160、161 参照

(8)未払利息の計上

決算日現在、支払利息という費用が発生しているが、現金の支払いが行われていないため、まだ帳簿には記入されていないという状態である。そこで、正しい損益計算を行うために、未払額を当期の費用として支払利息勘定に計上するとともに、新しく未払利息という負債の勘定を設けてその貸方に記入する。

未払利息勘定が負債であることをしっかりと理解する。

(借) 支払利息 18,000 (貸) 未払利息 18,000
-負債-

新版日商簿記 3 級 テキスト P.165 参照

— 精算表を作成する —

(1)勘定科目ごとに、試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減し、その結果を損益計算書欄または貸借対照表欄に記入する。そのさい以下のことに注意する。

- ① 試算表欄の金額と整理記入欄の金額とを加減するとき、貸借同じ側にある金額は加算し、反対側にある金額は減算する。

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	293,000 ①		270,000 ②	293,000 ③			270,000 ④	

293,000 (①) と同じ借方にある 270,000 (②) は加算し、反対側にある 293,000 (③) は減算する。

② 資産・負債・資本の各勘定は貸借対照表欄に記入し、収益・費用の各勘定は損益計算書に記入する。

(2) 精算表を作成するにあたって次の勘定科目が何の勘定か間違えないようにする。

資産	消耗品・未収手数料・前払保険料
負債	未払利息
費用	売上原価・貸倒引当金繰入・有価証券評価損・減価償却費

※貸倒引当金勘定は売掛金および受取手形の評価勘定であり、減価償却累計額は備品の評価勘定である。精算表を作成するときはいずれも負債の側に記載する。

(3) 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、その差額を当期純損益の行のそれぞれ金額の少ない側に記入する。なお、以下の 2 点に注意すること。

① P/L の借方と B/S の貸方に上記差額を記入したときは、差額を記入したと同じ行の勘定科目欄に「当期純利益」と記入する。逆に、P/L の貸方と B/S の借方に差額を記入したときは当期純損失と記入する。

② 各欄の借方・貸方の金額を合計し、合計金額を記入する。